

2 歴史の道「萩往還」

街道とまちの再生を目指して

地域のねらい

目的：藩政期に参勤交代の御成道として整備された萩往還は、今もおおむね往時の石畳、駕籠建場など多くの史跡や宿場などの町並みが残っている。幕末期には、維新の志士たちが、近代日本の幕開けを志して奔走する街道として重要な役割を果たした。人や物の往来の中で育まれたその土地固有の資源とその活用手法を構築し、街道観光を通じたまちの再生を目指します。

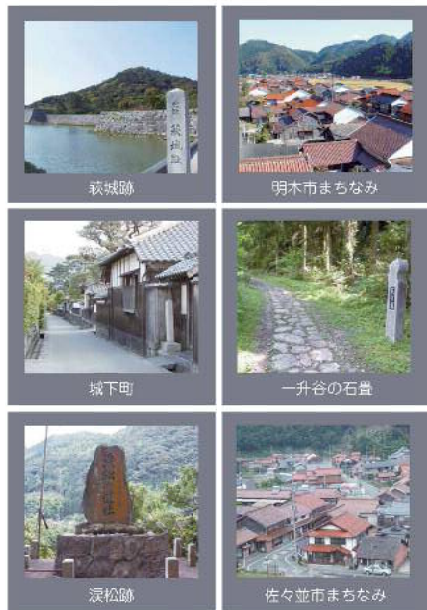
方針：萩市のまちづくり指針である「萩まちじゅう博物館構想」に基づき、萩往還を構成に引き継ぐべき歴史遺産として保存、活用を図るとともに、重要な観光資源の一つとして位置づけ、恒常的な交流事業の開催などを通じて観光交流人口の拡大を図ります。

活動エリアと地域資源

現在の活動エリアは、萩市中心部と国道262号を中心とした萩市内です。このエリアは江戸時代から幕末期にかけての歴史遺産が今もその姿を留め、萩城跡、高札場、松下村塾、明倫館などの歴史遺産、吉田松陰をはじめとする維新志士たちの軌跡が点在し、往時の面影を感じることでできる歴史的景観を数多く有しています。

特に萩市中心部は江戸時代の地図が今も使えるという全国でも貴重なまちであり、史跡や伝統的な建物の保存に努めるとともに、市内全域において、まちじゅうが屋根のない博物館であるという「萩まちじゅう博物館構想」に基づいたまちづくりを進めています。

今後は山口市や防府市と連携し、萩往還全線を対象エリアとして街道観光を通じた交流人口の拡大を目指します。



地域の活動内容

萩往還の活用事業

○萩往還ワンデーウォーク

維新の志士が駆け抜けた歴史の道を歩こうをテーマに平成20年度から開催しています。第5回目となる平成25年度は県内外から1,330名の参加者がありました。大会を支えるボランティア約200名が、給水所や休憩所の運営を行い、ぜんざい甘がゆの接待などで参加者をもてなしています。



萩往還ワンデーウォーク



技・明木展



どうしんてやろう会



全国街道交流会議「萩往還・萩会議」

○萩往還まつり「技・明木展」

萩往還の宿駅として栄えた明木地区において、平成16年度から開催しています。県内外から陶器、ガラス、木工、草木染めなどの伝統工芸品が街道沿いの民家や商店の軒を活用して展示販売されるほか、地元特産品の販売や絵画・彫刻の展示も行われています。

地域振興の取組

○どうしんてやろう会

萩往還の中間点に位置する佐々並市地区が平成23年6月20日に萩市内で4カ所目となる、重要伝統的建造物群保存地区に選定され、京都市と並び全国最多となった。佐々並地区は約20.8haの宿場町で、藩政時代には藩主が休泊する御茶屋や人馬を継ぎ立てる目代所などがあった場所です。この佐々並市地区を盛り上げようと組織された「萩往還佐々並どうしんてやろう会」(いっしょにやろうという方言)では、月に1回会合を開き、自らの地区の歴史についての勉強会、ガイド研修、イベントの開催や清掃活動に取組まれ、訪れる人々のおもてなしに尽力しています。

広域連携の取組

- ・萩往還観光誘致制度創設委員会
- ・NPO法人全国街道交流会議との連携

地域の推進体制

萩往還パートナーシップ

萩往還を後世に継承していくため、その活用について連携・協力して具体的な活動を行う。

